第12回熊本市歴史まちづくり協議会 議事録

【日　時】令和８年（2026 年）３月 17 日（火） 午後3時00 分～午後5時00分

【場　所】カリーノ MS ビル

【出 席 者】9名出席　※以下、敬称略
委員 鄭　一止 （会長）、大森 洋子、小粥 祐子、田中 尚人、松﨑 範子、帆足 俊文、
早川 祐三、宮本 茂史、栗崎 剛

【議　題】
１ くまもと歴史まちづくり計画の令和７年度進捗評価について（報告・意見聴取）
２ 令和８年度の主な取組みについて（報告・意見聴取）

【概　要】
進行管理・評価について事務局で説明後、意見聴取を行った。委員から出された意見は以下の通り。

1.歴史的建造物の調査・記録の充実
・歴史的建造物の修理にあたっては、補助金の有無や文化財指定の有無に関わらず、修理前の状態や修理の方法の履歴を記録として残していただきたい。
・被災文化財については、応急復旧が優先されてきた経緯を踏まえつつも、今後は原則として修理前調査を行っていただきたい。

2.町屋・未指定文化財の保存に関する課題
・助成対象となった町屋や評価を受けた建物であっても、解体される事例が見られ、町屋保存の継続性が課題となっている。
・町屋は単体だけではなく、一定数が連続して残ることでまちなみとしての価値が高まるため、面的な保存につながる支援のあり方が求められる。

3.市民・所有者の意識向上と評価のあり方
・市民や地域住民の意識の変化を把握し、施策評価に活用していくことが望まれる。
・助成の有無に関わらず、町屋オーナーが持っているプライドに対する賞のようなものを受賞できるといい。
・空家手帳などのツールを活用し、空家オーナー本人や家族に建物の歴史や思い出を書き込んでもらい、その内容を町並み調査や街歩きガイドの際に活用していく取り組みがあると良い。
・世代交代の前から、町屋オーナー自身が意識を高められるような仕組みを作ってほしい。

・補助額や補助率を思い切って引き上げてもらわなければ、オーナーが前向きに取り組もうという気持ちにはなりにくいと思う。
・町屋の修理が進んでいるのは評価されてよい。
・熊本市の歴史まちづくりの取り組みは熱心で細かいところまで取り組まれている。

4.熊本地震 10 年の節目を踏まえた発信

・熊本地震から 10 年という節目を踏まえ、復興の歩みやその後の変化を整理し、次の 10 年に向けた歴史まちづくりの取組に活かしてほしい。

5.観光施策・補助制度との連携

・国の観光関係補助制度等の補助事業を組み合わせて効果を高めていってほしい。NPO 法人や事業者自身が、申請できる補助もあるので、情報提供をしていただきたい。
・文化財、観光、都市分野等の関係部署が連携し、総合的な取組を進めることが重要である。

6.情報発信について

・城下町や川尻地区など、それぞれの地域が有する歴史的背景や成り立ちを整理し、現在の事業と結び付けて発信していくといいと思う。
・古写真を VR 映像等に使用することで、地域の情報発信に役立つ起爆剤になると思う。
・重点地区の道沿いにあるベンチ等に、QR コード等を掲示して、その場で、歴史的な写真や映像を見ることができるというような情報提供の充実を図ってはどうか。
・デジタル媒体に加え、紙媒体等のアナログな手法も組み合わせ、幅広い世代への周知を行ってほしい。

7.地域文化・祭りの継承支援

・地域や沿道店舗からの寄付を財源としている地域の祭りや伝統文化について、地域に新しく参入してきた店舗にも寄付金について理解してもらい、相互に支えあう地域循環を築きたい。
・地域の祭りや伝統文化について、担い手不足や継承の課題があることから、行政としても文化事業をバックアップしていただきたい。